

## かみいち総合病院改革プラン評価表(経営効率化指標)

## 1. 財務に係る数値目標

主な数値目標	平成22年度			平成23年度		取組内容	評価委員の 評価・指摘事項
	計画値	実績値	達成状況	計画値	実績値		
経常収支比率	93.9	96.7	A	95.1		1. 地方交付税等の財政措置の拡充に伴い一般会計からの繰入金が増額され経常収支比率が改善した。  2. 医師不足の中、糖尿病として2名の専門医を確保。医業収支比率は計画値を達成。  3. 医業収益を確保するため、診療報酬改定に際して積極的に施設基準取得を実施。1人あたりの診療単価は目標を入院・外来ともに達成した。  4 24H、365日救急医療体制は理想であるが、医師不足で現実的に再開は難しい。富山医療圏の中での救急対応は可能で、現在できる取組を進めながら、住民の理解を深めていくことが必要である。	1 H22.10開設の糖尿病センターによる医療の質向上という点で評価できる。もっとPRすべきである。  2 精神疾病が5大疾病に追加される状況で、精神病棟のあり方には、十分留意して検討すべきである。  3 特色あるセンター構想において、消化器センター、訪問診療・訪問看護センター、血管センター等に取り組んでいくべきである。
職員給与比率	61.5	59.8	A	61.1			
病床利用率(一般)	76.5	77	A	78.2			
平均在院日数(一般)	17.5	18.2	B	17			
医業収支比率	87.2	89.6	A	89.6			
不良債務比率	0	0	A	0			
患者1人1日当たり診療収入(入院)	27,958	28,197	A	28,922			
患者1人1日当たり診療収入(外来)	8,801	8,979	A	9,187			
患者1人1日当たり診療収入(医師)	327,834	306,538	B	323,944			
患者1人1日当たり診療収入(看護師)	53,104	51,486	B	54,204			
患者1人1日当たり薬品費	2,716	2,548	B	2,665			

## 2. 医療機能に係る数値目標

主な数値目標	平成22年度			平成23年度		取組内容	評価委員の 評価・指摘事項
	計画値	実績値	達成状況	計画値	実績値		
1日平均患者数(入院)	166	167.1	A	170		患者数は入院・外来とも目標値を達成した。 紹介率も目標値を達成し、さらに病診連携が進んだ。 常勤の麻酔医が不在のため、手術件数が伸び悩んだ。	1 整形外科の手術増、患者増は病院の強みであり、さらに伸ばす取組が必要である。  2 国保直診病院として今後とも地域包括ケアと総合医の育成・確保が大切である。
1日平均患者数(外来)	477.8	478	A	470.1			
入院患者1000人当たり手術件数	13.9	11.9	B	14			
紹介率(%)	20.0	20.2	A	30.0			

(注) 1. 達成状況の欄は、A: 目標以上 B: 一定の実績 C: 実績なし により自己評価した上で評価委員会で評価されたもの

かみいち総合病院改革プラン 評価表 平成22年度分

取組項目	番号	内容	指標	目標値 H22	実績値 H22	自己評価	評価委員	目標値 H23	全体計画	実績及び成果等	平成23年度活動計画	評価委員の指摘事項等
② 経費削減・抑制対策	1	医事委託業務の拡大による正規職員(嘱託・臨時含む)の削減	職員数	6,000千円 (1人減)	0人	C		12,000千円 (2人減)	(事務職員)平成22~23年度 合計2人減 (削減額 22~23年度 12,000千円)	医事業務の専門性を高めるなど業務の効率化を図るため専門業者から1名派遣を受けたが、正規職員の削減には至らなかった。	・医師、看護師、コメディカルスタッフは現在も人員不足の為、削減対象は事務部門に限る。 ・引き続き医事の委託業務範囲を見直しを行い、正規職員の削減に努める。	
	2	時間外勤務手当の抑制 (20年度当初予算比毎年5%減 下記数値は手当合計額) H20 22,864千円(補正後予算 31,374千円) H21予算(医師除) 21,720千円(補正後(医師除) 35,581千円) H22予算(医師除) 20,635千円(補正後(医師除) 29,290千円) H23予算(医師除) 23,999千円	人件費	1,000千円 (21年度対削減額)	▲2,251千円	B		1,000千円 (22年度対削減額)	削減額 21~23年度合計 11,600千円	医師事務作業補助者の業務処理範囲の拡大を図ったが、看護部門、事務部門ともに大きく抑制することができなかった。 H20決算 26,282千円 H21決算 25,083千円 H22決算 27,334千円	・医師事務作業補助者の業務処理範囲の拡大と効率化を図り、時間外勤務の抑制を行う。 ・医療スタッフのさらなる協働、連携の推進 ・業務委託の業務内容見直し・早上がり運動の実施	
	3	医療材料費の抑制	経費	6,000千円	5,700千円 (薬品4,800千円、医療材料900千円)	B		6,000千円	・薬品費、診療材料の値引き交渉の強化 平成22年4月からさらなる値引きに向けての交渉強化 医薬品8.1%→10%、診療材料3%値引き率 (削減額 22年度 6,000千円 23年度 4,000千円) ・平成23年度からSPD(院内物流の外部委託)の導入 (削減目標 23年度 2,000千円 24年度 4,000千円)	薬品については、自治体病院協議会の医薬品値引調査結果等の情報をもとに、価格交渉(年2回)を粘り強く進め、目標を上回る10%を確保した。(値引額薬品4,800千円) ・診療材料は年度当初をはじめより随時値引交渉を行っており、秋に実施した購買監査の結果をもとに取引額の高い業者を中心として値引き交渉を進めた。結果として単価契約を行なっている物品については約90万円の削減を行なった。	現状の取り組みだけではさらなる医療材料費の削減が困難なため、今秋を目処にSPDを導入して、全体の医療材料費の抑制・削減を行う。	
	4	業務委託の内容及び金額の見直し ・施設管理 ・外来受付など	経費	12,000千円	9,456千円	B		4,600千円	・施設管理委託内容の見直し 契約年数の複数年化 (削減額目標 21年度~23年度 合計 20,600千円) ・外来診療受付の業務委託契約を競争入札実施 (削減額目標 21年度~23年度 合計 12,000千円) 病院総合情報システム業務委託 H21 27,549千円→26,333千円	・施設、設備総合管理業務について計画的効率的な保守点検を行うため、3年分の業務内容を点検精査した。単年度契約であるが大幅な経費の削減を図ることができた。 H21 68,565千円→H22 63,535千円 ・外来診療受付の見直し・改善を図るため、委託業者とのミーティング・ヒアリングを頻繁に行い、委託費用に見合った業務内容の精査を行い、省力化を図った。 H21 24,570千円→21,360千円	22年12月実施の購買監査においても、価格の妥当性はあるものの、競争原理が働いていないとの監査結果に基づき、23年10月に医事業務委託の競争入札を実施する。	
	5	医師の増員に伴う経費の見直し (増額分)	人件費	▲30,000千円	▲17,571千円	B		▲15,000千円	・21年度 人件費 45,000千円 材料費 75,000千円 ・22年度 人件費 30,000千円 材料費 50,000千円 ・23年度 人件費 15,000千円 材料費 25,000千円	平成22年10月より糖尿病の専門医2名を増員。しかし、22年12月に内科医1名が退職、23年1月にも医師1名が産休となったため、予算分まで費用が計上されなかった。	増収増益の為にも引き続き、医師の増員に努める。	
総括: ②経費削減・抑制対策		12,905千円削減(医師経費除く)										

かみいち総合病院改革プラン 評価表 平成22年度分

取組項目	番号	内容	指標	目標値 H22	実績値 H22	自己評価	評価委員	目標値 H23	全体計画	実績及び成果等	平成23年度活動計画	評価委員指摘事項等
①収入増加・確保対策	1	医師の増員	常勤医師数	収益200,000千円増(2名増)	収益95,526千円(10月から2名増)	B		収益150,000千円増	・平成22年度 増収額 200,000千円 内科医(透析医)1名、麻酔科医 1名。 ・平成23年度 増収額 100,000千円 内科医1名。	22年10月より糖尿病センターの専門医2名を確保した。 しかし当面の課題である麻酔科医の確保ができなかった。 22年12月に内科医1名が退職したほか、23年1月から内科医1名が産休となった。	医師確保は至上命題であり、引き続き関連大学等への陳情を粘り強く推進する。	
	2	急性期看護補助体制加算(平成22年4月)	診療報酬	20,000千円	20,848千円	A		20,000千円	平成22年度 20,000千円	平成22年4月より施設基準を満たし、算定を開始	継続	
	3	医師事務作業補助者加算25対1(平成22年5月)	診療報酬	3,000千円増	3,575千円	A		3,000千円	平成22年度 3,000千円 平成23年度 250千円(4月分)	平成22年5月より施設基準を満たし、算定を開始	継続	
	4	一般病棟看護必要度加算(平成22年4月)	診療報酬	2,000千円	2,060千円	A		2,000千円	平成22年度 2,000千円	平成22年4月より施設基準を満たし、算定を開始	継続	
	5	院外処方箋の発行抑制(発行率 68%→50%)	薬	発行率50%(7,100千円)	発行率57.5%(5,083千円)	B		50%	平成22年度 増収額 7,100千円 平成23年度 増収額 7,100千円 (平成21年度対比)	院内の調剤体制の整備が十分でないため、院外処方箋の発行率 57%にとどまる。	引き続き目標達成に努める	
	6	臨床試験(治験)の実施	収入増加策	3,000千円	0	C		3,000千円	増収額 3,000千円	治験は実施されず。	医師とのヒアリングを行い、実施に向けて努力する。	
	7	健診・ドック利用者の拡大	収入増加策	58,000千円(年間健診センター利用額)	53,253千円(▲3,000千円)	B		60,000千円(年間健診センター利用額)	増収額 3,000千円(H22) 増収額 2,000千円(H23) (前年対比)	土曜ドック、女性ドックは医師確保が困難なため、実施することができなかった。 そのため、期待した増収を得ることができなかった。	平日ドック利用者の増に努める。 土曜・女性ドックは現状医師確保に努めることで実現を目指す	
	8	領収書裏面広告(22年度から)及びホームページのバナー広告(平成21年10月)の開設	その他	800千円	0	C		800千円	増収額 800千円(H22) 増収額 800千円(H23)	・病院ホームページでバナー広告欄を作成・貼り付けを行なったが、掲載応募件数は0件であった。 ・領収書の裏面広告は広告要項が作成されたが、実施に至らなかったが、60周年記念誌の作成に39社の協賛企業・団体から広告を募り、149万円の収入があった。	・病院ホームページを充実することでバナー利用の促進を行う。 ・裏面広告は実例を研究し、導入に向けて検討する。	
	9	未収金の徴収強化—徴収専門員を配置し早期回収、訪問徴収の強化、法的措置(支払督促等)	未収金徴収	500千円	1,399千円	A		1,500千円	増収額 1,500千円(H21~H23)	平成21年5月から徴収専門員1名の配置を行い、訪問徴収を強化した。重度未払い者に対する重点訪問等を行なったが、抜本的な診療費回収には至らなかった。	早期回収のため色別封筒等を利用するほか、徴収専門員による戦略的な徴収活動を実施する。	
総括:①収入増加・確保対策 120,408千円収益増												
(注)1. 達成状況欄は、A:目標以上 B:一定の実績 C:実績なし により自己評価した												